

令和4年度 学校評価結果の考察と今後の対応について

長崎県立鶴南特別支援学校（本校）

0 はじめに

令和4年度の学校評価は、昨年度に続き、オンライン（教職員はマイクロソフト Forms、保護者は安心メール）でアンケートを実施した。昨年度の課題であった回収率は、本校で職員が100%（昨93.9）、保護者が84.2%（昨61.0）であった。

別添の諸表は、これらアンケート結果をまとめたものである。また表の右に、

▼ 昨年度比0.2ポイント以上の下落 ▽ 0.1ポイントの下落 ◎ 0.2ポイント以上の上昇
の記号を付している。

数値の変化は、アンケートをとった教育活動やその周辺そのもののクオリティ等によるものはもちろん、構成員の変化（人事異動や定員数）、社会情勢の変化（コロナ禍等）の影響も受ける。教職員だけ、あるいは保護者だけに抛らず、それらを比較しながら分析する必要がある。

なお、今回、コロナ禍で実施できなかったNo.23の学校公開項目は、評価対象外とした。

1 教育活動について

(1) 読み取れること

- ① 教職員（全学部）では、1項目（19項目中）で昨年度比マイナス。（昨年度は8項目マイナス）
- ② ①の下落は「No.14 児童生徒の事故防止のための研修や指導をしている」で、0.1ポイント下落にとどまる。同項の下落は小中に見られるが、中は0.2ポイントの下落。ただし、平均値に大差なし。
- ③ 小学部の教職員では、10項目（18項目中）でマイナス（昨年度は17項目マイナス）。0.2ポイント以上のマイナスは3項目（No.17で最大0.4マイナス。平均値が3未満）。プラス項目の無かった昨年度に対し、2項目（No.15、18）でプラス0.2となった。
- ④ 中学部の教職員では、マイナスが1項目（No.14）にとどまり、14項目でプラス0.2以上となった。特にNo.12は、昨年度平均値「3」未満が今年度は0.5ポイント上昇。高等部教職員の3項目（19項目中）マイナスは、昨年度と同じ。
- ⑤ 結果、教職員では小中高とも、大項目「1 教育活動」は「3.4」となった。
- ⑥ ①に対し 保護者（全学部）で、昨年度比マイナスは2項目（19項目中。いずれも0.1ポイント）。
- ⑦ ③④に対し 保護者では、昨年度比マイナス、特に0.2ポイント以上の減は中学部に多く、小学部保護者ではプラス0.2以上が6項目と多かった。（※昨年度の小学部と中学部とが逆転）
- ⑧ 中学部保護者で、昨年度比マイナスが多くなったものの、平均値の数値そのものが低い訳ではない。（「3」未満は無し）
- ⑨ 教職員・保護者にわたり平均値を見ると、「3」未満は小学部教職員の「No.17 児童生徒の将来の夢や願いの実現に向けた情報を提供している」の「2.9」のみ。（昨年度、中学部教職員では4項目で「3」を下回り、うち、やはりNo.17が「2.8」）
- ⑩ 教職員の平均値を見ると、小中高と進むにつれ、No.16、17の進路関係項目の数値が高くなっている。（保護者では同様の傾向は見られない）

(2) 推察できること（考察）

- ① 小学部教職員で昨年度比マイナスが多いのは、対象の児童が特別支援教育を受けた年数が少なく、「自立」に遠くて成長が漸進的であるからか（※教職員の経験年数・本校勤務年数や性別、担当学年には関係ない。謙遜か自己の期待値の高さ故かもしれない）。昨年度下げ幅の大きかったNo.7の専門性はプラスに転じ、数回にわたる学校評価担当者からのアナウンス効果が表れたのかかもしれない。
- ② 中学部教職員の昨年度比プラス0.2以上が多かったのは、昨年度の各項目平均値が低めで、その反動と思われる。また比較的少ない職員数で異動が一定数あれば、数値の変動は容易に想像できる。
- ③ 教職員（全学部）で、「個別の教育支援計画」や「研修」など全体の既定のもの・体制として行うものに対し、教職員個人の資質や活動の成果に依る項目は、低く自己評価する傾向があるのではないか。
- ④ No.16、17が小中学部で低めなのは、高等部に比べて「出口」を意識する機会が少ないからではないか。高等部でもNo.17がそれほど高くなく、コロナ禍の影響があるのかかもしれない。

2 教育環境について

(1) 読み取れること

- ① 教職員（全学部）では、1項目でマイナス0.2以上（全3項目中）。
- ② ①のNo21 教育環境の整備・活用項目は、中学部教職員でマイナス0.9と大幅な減少となり「2.9」、続いて高等部教職員のマイナス0.2で平均値「3.0」と、下げ幅とともに評価の平均値が低かった。一方、同項目について、事務室はプラス0.4で評価の平均値も「3.7」と高かった。
- ③ 大項目「2 教育環境」全体の平均数値でも、小学部中学部ともに教職員「3.2」、高等部教職員「3.1」と低めであり、事務室の「3.6」や保護者全体の「3.4」とは開きがある。
- ④ 保護者（全学部）では、昨年度とほぼ変わらない。（No20 安心安全な施設整備がプラス0.1）
- ⑤ 保護者の学部別では、小学部で昨年度比ほぼ変わりなく、中学部では昨年プラスのNo21 教育環境の整備・活用項目がマイナス0.2となった。高等部ではNo22 校舎内外の施設整備・清潔な学校づくり項目で昨年度比マイナス0.1であるが、ほぼ変わりはない。

(2) 推察できること（考察）

- ① 各学部教職員の評価平均値と事務室の評価平均値、保護者の評価平均値との乖離は、実際に施設設備を日常的に使用しているか否かの差異であると思われる。
- ② 保護者の評価平均値が高くもなく低くもないことは、コロナ禍で以前より校舎内に入る機会が少なく、教育環境の詳細について知ることがないからか。

3 開かれた学校について

(1) 読み取れること

- ① 教職員（全学部）、保護者（全学部）とも、全2項目において昨年度比ほぼ変わらず。（※昨年度は、教職員（全学部）で全3項目マイナス）
- ② 中学部教職員では、No25 ホームページや便りでの情報発信で、前年度比プラス0.4の「3.6」。
- ③ 高等部教職員では、No24 PTAでマイナス0.1の「2.9」。「3」を割込む数値になった。
- ④ ②に対して 中学部保護者では、同項で0.1ながらマイナス。また、No24 PTAでマイナス0.3。
- ⑤ ③に対して 高等部保護者では、同項は昨年度と変わらず。
- ⑥ 大項目「3 開かれた学校」全体の平均値では、教職員、保護者とも特記するほどの数値ではないが、あえて指摘すれば、中学部保護者の「3.1」であり、他学部より低い。

(2) 推察できること（考察）

- ① コロナ禍での対応が日常化し、前年度比のマイナス要因が意識されにくくなったか。
- ② PTA活動は、各専門部で地道に活動し、広報紙にも掲載していたが、保護者アンケートを開始した11月末から12月初旬では認知に至らず、研修部の研修代替としての「進路相談会」も開始の時期がアンケート後となってしまったことが、数値の向上につながらなかったのではないか。

4 今後の対応について

(1) 教育活動について

教職員（全学部）で数値上「授業の分かりやすさ」に課題がある。ただし、保護者アンケートでは、学部を問わず好評価である。自信を失わず、今後とも児童生徒個々の実態把握を丁寧に行い、学級担任の連携のもと教育課程の目標が達成できるような方策が授業で実践できるか、学年や学部単位でチェックし、一層の向上に取り組むこと。

学部を問わず、No.7 専門性について教職員の自己評価が高くない。経験の多少と関係ないようであり、研修で知り得た「理論」的なことを授業実践で生かし、「相担」等からの他者評価を得てスキルアップを自認する必要がある。そもそも、外部専門家の「理論」に対し、教職員は「実践」の専門家であり、専門性のあり方の違いを認識し、業務遂行すべきである。昨年度も指摘したが、研究授業や夏休みの研修ウィーク等で、専門性向上の機会があったが、研修後の同僚や管理職からのフォローを続けて行くことが今後必要である。

児童生徒の進路について、小中学部の教職員で評価平均値が高くなかったが、保護者は自己の若い先と併せて子の成り行きが気掛かりなものである。小中学部でも、高等部卒業後の進路について情報を得た上で、保護者面談等でのアドバイスのバックボーンとして用意しておくこと。これまでも高等

部進路指導部主催の説明会はあったので、小中の学部単位で参加を促し、情報をアップデートしていくこと。

(2) 教育環境について

予算の関係上、すぐには改善できないことが多いが、教育活動上必要なこと、あるいは安全確保上大切なことには教員と事務室との連携である。個々にその都度、連絡することも想定されるが、改善を要する箇所の情報を如何に収集し、伝達するかの体制・しくみも重要である。そして改善が図られた場合に、如何に保護者等へ伝えるか、近接箇所であれば、該当学年・学級通信で知らせることも考えられる。

(3) 開かれた学校について

HPの適時更新は、校長先生の指導のもと実行されているが、行事計画の際、HP更新まで含んだ記述にすると、より計画的に更新が図られると思われる。「外部の方の主な情報入手はHPから」の認識をもって保護者や入学を検討している方に対応しなければならない。

PTA総会は3年連続、対面開催できなかった。この間、鶴南まつりでのPTA保護者会員の役を無くし、また執行部を交えて話し合った結果、広報紙発行回数を減らし、進路の研修会見学会を相談会に替えて個別の相談に応じるなど今後のPTA改革の準備も行ってきた。これを一般会員・教職員会員に如何に伝えるかが鍵である。

さらに、新型コロナウイルス感染症の「5類」移行によって、学校公開など地域開放が再開すると思われる。コロナ禍の中、新転入によって鶴南本校での地域開放の様子を知らない教職員が多くなっているため、開放のあり方について早めの検討・決定が必要になってくる。

令和4年度 長崎県立鶴南特別支援学校 学校評価 保護者アンケート結果

番号	評価内容	今年度	昨年度	小学部	中学部	高等部
1 教育活動		3.5				
1	教育目標には児童生徒の実態に合った教育ニーズや願いが盛り込んである。	3.5	3.5	3.7	3.3	3.5
2	教育活動と目標は適切で、保護者に理解を得て実践している。	3.5	3.5	3.7	3.3	3.5
3	特色ある学年・部経営が行われ、児童生徒の成長のための取組を行っている。	3.5	3.5	3.6	3.3	3.5
4	保護者の希望や願いの声が届きやすく、学校運営に反映されている。	3.4	3.3	3.5	3.3	3.3
5	学校は、児童生徒が主体的に活動しようとする指導内容や学校行事を行っている	3.5	3.4	3.6	3.5	3.5
6	教職員は、自分の個性を発揮し、明るく活気のある学校作りを行っている。	3.5	3.5	3.5	3.3	3.6
7	教職員は、専門性をもって指導に取り組んでいる。	3.4	3.5	3.5	3.3	3.4
8	学校は、「個別の教育支援計画」について保護者と話し合いながら適切に取り組んでいる。	3.6	3.7	3.7	3.4	3.6
9	学校行事や授業などで、一人一人の生き生きとした活動の様子がみられる。	3.5	3.5	3.6	3.4	3.5
10	児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている。	3.5	3.5	3.6	3.3	3.6
11	学校は、基本的な生活習慣や挨拶、礼儀などが、身に付く指導をしている。	3.5	3.5	3.7	3.3	3.5
12	学校は、児童生徒の立場に立った声かけをしたり、相談を受けたりしている。	3.5	3.4	3.6	3.4	3.6
13	学校は、児童生徒の命を尊び、人権を尊重した取組を行っている。	3.5	3.5	3.6	3.4	3.5
14	学校は、児童生徒の事故防止に努め、適切な指導をしている。	3.5	3.5	3.6	3.4	3.5
15	学校と家庭が必要な情報を共有し連携した体制になっている。	3.6	3.4	3.6	3.4	3.6
16	学校は、児童生徒の成長に合わせ将来を見通した進路指導をしている。	3.5	3.4	3.6	3.3	3.5
17	学校は、児童生徒の将来の夢や願いの実現に向けた情報を提供している。	3.4	3.3	3.5	3.2	3.4
18	学校は、いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。	3.5	3.5	3.6	3.3	3.5
19	学校は、現場実習や進路開拓(一般就労・福祉就労等)を十分に行っている。(高のみ記入)	3.5	3.5			3.5
2 教育環境		3.4				
20	学校は、安心・安全な施設・設備が整っている。	3.4	3.3	3.3	3.4	3.4
21	児童生徒の学習に必要な教育環境が整えてあり、活用されている。	3.4	3.4	3.4	3.3	3.4
22	学校は、校舎内外の施設が整備され、清潔な学校づくりに努めている。	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3
3 開かれた学校		3.3				
23	学校公開など、地域の人が来校しやすい機会や学校行事を設けている。	####	3.3	####	####	####
24	PTA活動に参加しやすいよう配慮している。	3.2	3.2	3.2	3.0	3.2
25	学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている。	3.4	3.3	3.5	3.2	3.4

令和4年度 長崎県立鶴南特別支援学校 学校評価 教職員アンケート結果

番号	評価内容	今年度	昨年度
1 教育活動 3.4			
1	教育目標には児童生徒の実態に合った教育ニーズや願いが盛り込んである。	3.4	3.4
2	教育活動と目標は適切で、保護者に理解を得て実践している。	3.4	3.4
3	特色ある学年・部経営が行われ、児童生徒の成長のための取組を行っている。	3.4	3.4
4	保護者の希望や願いの声が届きやすく、学校運営に反映されている。	3.2	3.2
5	児童生徒が主体的に活動しようとする指導内容や学校行事を行っている。	3.4	3.3
6	自分の個性を発揮し、明るく活気のある学校作りを行っている。	3.4	3.3
7	専門性をもって指導に取り組んでいる。	3.3	3.2
8	「個別の教育支援計画」について保護者と話し合いながら適切に取り組んでいる。	3.6	3.5
9	学校行事や授業などで、一人一人の生き生きとした活動の様子がみられる。	3.6	3.5
10	児童生徒への指導が一人一人に工夫され、授業を分かりやすくしている。	3.3	3.2
11	基本的な生活習慣や挨拶、礼儀などが、身に付く指導をしている。	3.4	3.3
12	児童生徒の立場に立った声かけをしたり、相談を受けたりしている。	3.5	3.3
13	児童生徒の命を尊び、人権を尊重した取組を行っている。	3.6	3.5
14	児童生徒の事故防止のための研修や指導をしている。	3.4	3.5
15	学校と家庭が必要な情報を共有し連携した体制になっている。	3.5	3.3
16	児童生徒の成長に合わせ将来を見通した進路指導をしている。	3.3	3.3
17	児童生徒の将来の夢や願いの実現に向けた情報を提供している。	3.2	3.2
18	いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりに取り組んでいる。	3.6	3.5
19	現場実習や進路開拓(一般就労・福祉就労等)を十分に行っている。(高のみ記入)	3.6	3.4
2 教育環境 3.2			
20	安心・安全な施設の整備に心がけている。	3.4	3.3
21	児童生徒の学習に必要な教育環境が整えてあり、活用されている。	3.0	3.3
22	校舎内外の施設が整備され、清潔な学校作りに努めている。	3.1	3.1
3 開かれた学校 3.2			
23	学校公開など、地域の人が来校しやすい機会や学校行事を設けている。	####	3.2
24	PTA活動に参加しやすいよう配慮している。	3.0	3.0
25	学校の情報をホームページや各種便りなどで伝えている。	3.4	3.3

小学部	中学部	高等部	事務室
3.4	3.4	3.5	3.7
3.5	3.4	3.3	4.0
3.5	3.3	3.3	4.0
3.2	3.2	3.3	3.7
3.3	3.6	3.3	3.7
3.4	3.3	3.4	3.7
3.3	3.1	3.3	3.7
3.7	3.7	3.4	4.0
3.6	3.4	3.6	4.0
3.3	3.2	3.2	4.0
3.5	3.4	3.4	3.3
3.5	3.4	3.6	4.0
3.6	3.5	3.6	3.7
3.4	3.3	3.4	3.7
3.6	3.4	3.5	3.7
3.0	3.3	3.6	4.0
2.9	3.1	3.4	4.0
3.6	3.7	3.6	3.5
		3.6	
3.4	3.5	3.3	3.5
3.1	2.9	3	3.7
3.2	3.1	3.1	3.5
####	####	####	####
3.1	3.0	2.9	4.0
3.3	3.6	3.4	3.3